

令和7年度使用

# 中学校用教科用図書研究資料

道 徳

宮崎県教育委員会

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された道徳科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発行者	概評
2 東書	(1) 道徳科の目標を達成するために、教材3つをユニット化して、「いじめのない世界へ」「いのちを考える」というまとまりを作り、全学年同じ時期に配置することで、指導に最適な時期に重点的な学びができるような構成・配列の工夫が見られる。
17 教出	(1) 道徳科の目標を達成するために、いじめ問題、共生や持続可能な社会の在り方、生命の尊さのテーマで、複数の教材とコラムを組み合わせて重層的にユニット化し、深い学びができるような構成・配列の工夫が見られる。
38 光村	(1) 道徳科の目標を達成するために、9つのテーマでゆるやかに全教材をユニット化し、異なる内容項目からテーマにアプローチすることで、多様な学びができるような構成・配列の工夫が見られる。
116 日 文	(1) 道徳科の目標を達成するために、多様性の尊重とSDGsに関わるテーマを教材ごとに設定し、一部を同じテーマでユニット化して年間で複数配置することで、現代的課題についての考えが深められるような構成・配列の工夫が見られる。
224 学 研	(1) 道徳科の目標を達成するために、最重点テーマ「いのち」に関わる教材と「SDGs」「多様性」「キャリア」の3つのテーマのユニット学習を関連させることで、自他の命について広い視野で考えを深められるような構成・配列の工夫が見られる。
232 あか図	(1) 道徳科の目標を達成するために、重要なテーマについては教材を連続させてユニット化し、各学年でユニット数やユニット内の教材数を変えることで、発達段階に応じた学びを深められるような構成・配列の工夫が見られる。
233 日 科	(1) 道徳科の目標を達成するために、教材を学習指導要領の内容項目に沿って視点別内容項目順に配列し、各学校が学習指導要領に拠ったカリキュラム編成がしやすいような構成・配列の工夫が見られる。

## 2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的に自分との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えたりできるような学習活動を展開するために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びができるように、「考えよう」「見つけよう」でテーマについて考えさせ、「ぐっと深める」という補助発問で更に深く考えさせるとともに、「探究の対話」では、哲学対話を取り入れる工夫が見られる。</p> <p>(2) 多面的・多角的な考え方ができるように、見開きでのポスターやグラフなどを用いたビジュアル教材で想像を広げ、読むことが苦手な生徒からも異なる立場や視点から多様な考えを引き出すような工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びができるように、「導入」の問いで生徒の日常と教材をつなぎ、「学びの道しるべ」の三つの問いで生徒の考えを引き出し、段階的に深めさせることができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 多面的・多角的な考え方ができるように、複数の教材とコラムを組み合わせたユニットや、様々な立場に立って考えたことを教科書に書き込んで整理し、他者の考えと比べる言語活動により、問題の本質に迫るような工夫が見られる。</p>
38 光 村	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びができるように、「考えよう」では二つの問いで学びのテーマに迫り、「チャレンジ 問いを立てよう」では、生徒自らが問いをもち探究することができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 多面的・多角的な考え方ができるように、「見方を変えて」では「考えよう」の発問とは切り口を変えた問いや呼びかけ、「つなげよう」では更に深めさせたいテーマを提示するような工夫が見られる。</p>
116 日 文	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びができるように、「考えてみよう」「自分に+1」では発問を二つに精選し、ねらいを焦点化して考えを深めさせながら、「あすへのメッセージ」では生き方について自分自身を見つめ直すことができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 多面的・多角的な考え方ができるように、「学びを深めよう」では問題解決的な学習や体験的な学習の流れと資料を提示し、生徒が話し合い活動や役割演技を通して道徳的価値にせまるような工夫が見られる。</p>

224 学 研	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びができるように、「深めよう」を教材のあとに適宜配置し、考えを深めるステップ（見つけよう、考えよう、話し合おうなど）に沿った授業の流れを具体的に提示するという工夫が見られる。</p> <p>(2) 多面的・多角的な考え方ができるように、「クローズアップ」では教材の内容項目に即した資料や異なる立場からの多様な意見及び関連情報などを扱い、教材を軸に考えさせるような工夫が見られる。</p>
232 あか図	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びができるように、教材の初めに、内容項目の記載をしないことで、生徒が先入観なく教材と出会うことができるようにし、最後に「自分との対話」で自分に問い直す発問を設けるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 多面的・多角的な考え方ができるように、「マイ・プラス」では、役割演技や話し合いなどを取り入れて、生徒がいろいろな立場で想像したり考えたりできるような問いを設定する工夫が見られる。</p>
233 日 科	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びができるように、各教材では、「考えよう」「深めよう」の発問で、自分の考えを深めながら、1学年では「自由」、2学年では「幸福」、3学年では「愛」の大きなテーマを扱う工夫が見られる。</p> <p>(2) 多面的・多角的な考え方ができるように、生徒一人一人に「よりよい自分」を探究させるための、ウェルビーイングカードを活用し、それぞれの考えや思いを伝え合うことができるような工夫が見られる。</p>

### 3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	<p>(1) 学習効果や利便性については、巻頭に「道徳科の授業はこんな時間に」を設けることで、考え、議論する道徳を実現するための学習の流れが分かるように工夫がなされている。また、巻末の「心情円」を使用することで、すべての生徒が自分の気持ちや考えを簡単に表現でき、自己表現や話合いが苦手な生徒も授業に参加しやすくなるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、全学年で第1教材と連携した「学習の流れ」を設け「つぶやき」欄や「考えよう」「見つめよう」「ぐっと深める」の活用を具体的に示すことで、学習の流れをつかみやすくなるような工夫が見られる。</p>
17 教 出	<p>(1) 学習効果や利便性については、巻頭に「さあ、道徳を始めよう！」を設け、話合いを深めるためのポイントがつかめるような工夫がなされている。また、巻末の「よりよく生きる」ことについて、1年間の学習の集大成として表現する活動を取り入れることで、これまでの成長を実感し、これからの生き方について考えられるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、「学びの道しるべ」では、パターン化された3つの問いを考えることで、生徒が、常に道徳的価値について段階的に学びを深めることができるような工夫が見られる。</p>
38 光 村	<p>(1) 学習効果や利便性については、巻頭に「道徳の学習を始めよう」を設け、3つのポイントを示し、道徳科を学ぶ心構えを意識することができるような工夫がなされている。また、最終教材「一年間の学びを振り返ろう」では、これまでの学びを振り返り、心の成長に気付くとともに、これからの生き方について考えることができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、「考えよう」では学びのテーマを示し、テーマに迫るための二つの問いや発展的な問いを示すことで、生徒が1時間の学びの流れを見通しやすくするような工夫が見られる。</p>

116 日 文	<p>(1) 学習効果や利便性については、巻頭に「道徳科での学びを始めよう！」や「ミニ教材で考えてみよう」で設けることで、学びの見通しがもてるような工夫がなされている。また、別冊「道徳ノート」を併用することで、生徒自身が考えを記録し積み上げ、振り返ることで成長を実感できるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、学びのキーワード、ねらいに迫る発問、授業後の学びを活かす発問の3つの学習要素を全教材で設けることで、学習の流れをつかみやすくするような工夫が見られる。</p>
224 学 研	<p>(1) 学習効果や利便性については、巻頭「道徳科で学ぶこと考えること」の中で、思考ツールの使い方やICTの活用の方法を設けており、関連する資料を自分で調べたり考えを整理したりすることで、生徒が自ら関心を持って道徳の学びに向き合うための工夫がなされている。</p> <p>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、各学年の第1教材には「深めよう」を必ず設け、考えを深める4つのステップを示すことで、生徒が最初の授業で基本的な流れをつかみやすくするような工夫が見られる。</p>
232 あか図	<p>(1) 学習効果や利便性については、第1教材「道徳 はじまりの時間」を設け、どのようなことを学んでいくのかが分かるような工夫がなされている。また、巻末にワークシート「学習の記録」を設けることで、学期ごと及び1年間の学習の振り返りができるような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、考える道すじ、学習活動がイメージできる発問、自分との対話の授業のねらいを明確にした3つの発問を全ての教材で設定することで、生徒が見通しをもちやすくするような工夫が見られる。</p>
233 日 科	<p>(1) 学習効果や利便性については、巻頭に「道徳授業」を設けることで、前学年の振り返りと1年間の目標や課題について考えられるような工夫がなされている。また、巻末の「ウェルビーイングカード」を活用することで、授業において自分の意見をもとに、対話しやすくするような工夫が見られる。</p> <p>(2) 生徒にとっての分かりやすさについては、すべての教材に「考えよう」「深めよう」の2つの発問を示し学習活動が端的に分かるようにし、4つの視点ごとに4コマ漫画を取り入れ今後の学習に見通しをもてるような工夫が見られる。</p>